



「三河鳥羽の火祭」生酒

新ラベル絵に
「みそぎ」光景

国の重要無形民俗文化財に指定されている幡豆町の「鳥羽の火祭り」にちなんだ清酒「三河鳥羽の火祭」の生酒用のラベルが一新された。八日に同町西幡豆の酒蔵「山崎」(山崎厚夫社長)であった新酒発表会で披露された。

新ラベルの絵は、祭り当日の午後、男たちが海で身を清める「みそぎ」の光景。西尾市

12日から限定販売

西尾の家 齋藤吾朗さんが描く

在住の洋画家齋藤吾朗さんが描いた。

清酒は、町内の田んぼで栽培された酒米「若水」と地元天然水で仕上げられた辛口の純米吟醸酒。二〇〇五年に生酒、翌〇〇六年から火入れして保存のきく熟成酒も発売された。従来のラベルは祭りの夜、燃えたいまつに男たちが突進する様子を描いた齋藤さんの作品。生酒、熟成酒に使われてきたが、両種の区別がつきにくかった。従来のラベルは今後、熟成酒だけに使われる。

新ラベルの生酒は十二日に発売され、火祭りが開かれる来年二月八日までの限定販売。問い合わせは山崎 電話 0563(62)2005。(広中康晴)

新ラベルが張られた生酒を手にした山崎厚夫社長と熟成酒を持つ齋藤吾朗さん。幡豆町西幡豆の「山崎」で